

## 脳血管内治療の最新事情

脳神経外科 加藤大地



脳外科の手術には、従来の方法より低侵襲な、カテーテルを使用して行うものがあります。

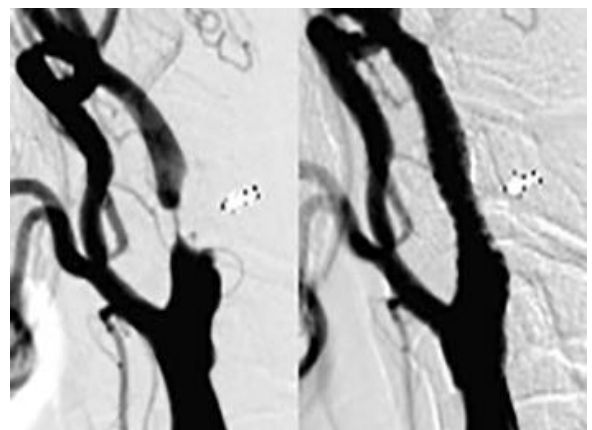
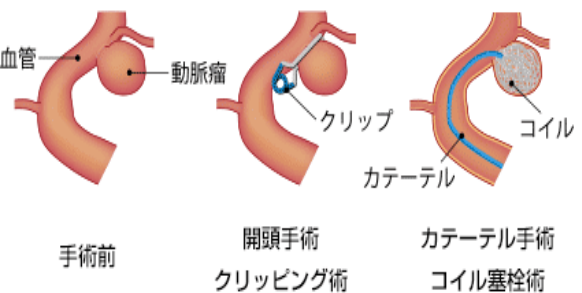
例えば、脳動脈瘤（脳の血管にできたこぶ）に対しては従来、皮膚を切って頭蓋骨に穴をあけ、脳の隙間を分けて動脈瘤を確認し、血流を遮断するクリップをかける方法をとっていました。

しかしカテーテルであれば、皮膚を数 mm 切開するだけで、血管の中から動脈瘤にアプローチし、その中にコイルを詰めることで、破裂してくも膜下出血となるリスクを減らすことができます。

また、頸部の血管が細くなってしまい脳への血流が乏しくなってしまった場合、血管の中から金属製のステントを開いて拡張し、血流を増加させることもできます。

そして、急性期の脳梗塞に対してもカテーテルで治療を行うことができるようになりました。

脳の血管に血栓が詰まって脳梗塞になってしまった場合、これまでは血栓を溶かす薬を点滴で使用し、治療していました。ここ数年の医療機器の進歩により、血管の中から閉塞した血管にアプローチし、血栓を回収する手技が確立しました。



血栓が血管内に形成



血栓にカテーテル挿入する



ステントを展開し、血栓を絡め回収する



血流が再開する



脳の血栓を溶かす薬と比較して、詰まった血管の再開通率が増加し予後が改善した上、使用不可能となるまでのタイムリミットが延長しました。

今年の3月には、様々な条件はありますが、24時間までは血栓回収療法を行えるようになっていました。とはいえ、脳の血管を再開通させるまでの時間が早いに越したことはありません。

万が一、ご自宅で「手足の脱力」や「顔の左右差」、「喋りにくさ」などを自覚された際は、迷うことなく救急車を呼ぶか、当科へご連絡ください。不安なことがあれば、ご相談いただくと幸いです。よろしくお願いいたします。